

荒尾に新たな「元気」が誕生！
 ～井手川地区元気プランが完成～

3月4日（木）、井手川地区元気づくり会（屋葺茂子会長）の役員が前畑市長を訪れ、今年2月に策定した「井手川地区元気プラン」を手渡しました。

同地区では、四小と五中が相次いで閉校。思いを新たに地域の思いと伝統を継承したいと、平成21年6月に「元気づくり会」を発足しました。

「みんなで守ろう 歴史のまち 井手川地区」をスローガンに、地区内にある万田坑や下井手神社（通称三の宮）などの文化財を守り伝え、環境美化や安心安全なまちづくりに取り組みます。

▶プランを手渡す屋葺会長と、役員のみなさん。50ページ以上にわたるプランには、熱い思いが詰まっている。



颯爽と！楽しく！遊園地を駆け抜ける
 ～荒尾クロスカントリーカーニバル 2010～

3月7日（日）、グリーンランドで開催されました。23回目の今年、当日は前日の雨の影響で肌寒く、足元も不安定でしたが、大人から子どもまで、県内外から集ったおよそ720人のアスリートが、遊園地とゴルフ場を舞台に、のびのびと走りを楽しみました。

招待選手として、有明高校陸上競技部女子の6人の選手のみなさんと、四中出身で昨年ユニバーシアード競技大会女子1万メートルで4位入賞を果たした西川生夏選手が参加し、大会を盛り上げました。

▶1 3 大迫力のジェットスターの足元を、親子で元気に走破
 2 荒尾出身の期待のアスリートで招待選手の一人、西川生夏選手。その軽快な走りに声援があがる



生涯学習が人生をより豊かに彩る
 ～中央公民館まつり～

3月7日（日）から10日（水）まで、中央公民館とエポック・荒尾で行われました。日頃から中央公民館で生涯学習活動を行っている参加者と訪れた観覧者で、会場は熱気に包まれていました。

7日はステージとお茶会、7日・8日（日）には食品バザー、また初日から最終日まで作品展示が行われました。4日間でのべ約1千100人もの人が訪れ、日々の学びが生み出した成果を発表し、館内いっぱい展示された作品を楽しみました。

▶1 体験コーナーも充実。写真は押し花の体験 2 健康ダンス。鮮やかな衣装で気持ちも華やきます 3 熱心に見入る観覧者で会場は満席。次の出番を待つ人も、緊張を忘れて見学



オレンジリングが広げる認知症理解の環

～中央小学校から認知症サポーターが誕生！～

PICK UP!
ひとの
ちから



▲ 認知症サポーターの証、オレンジリング(左)をつけた若き認知症サポーター。今春中学生になる彼らは、社会を支えるサポーターとしても一歩を踏み出す

平成 22 年時点、全国でおよそ 208 万人の患者がいると推計され、25 年後には 450 万人近くに増加すると考えられている認知症。しかし、症状や患者さんに対する理解はまだ進んでいないのが現状です。今、認知症を理解し、住みよい社会にしようという動きが進められています。

卒業式を2週間後に控えた3月11日(木)、この春巣立った中央小学校の6年生108人(男女各54人)が、認知症サポーター養成講座を受講しました。学校がある新生区のまちづくり活動の一環として同区公民館でも実施されている同講座を、子どもたちにも受けさせたいという地域からの提案に、秋吉啓子校長が賛同して実現しました。



「受講した子ども一人の感想です。正しい認識と思いやりの心を深めた子どもたちは、頼もしいサポーターデビューを飾りました。」

認知症とは、アルツハイマーや脳梗塞など脳血管障害などのさまざまな病気が原因で、脳の知的な働きが持続的に低下した状態のことをいい、とても身近な病気です。「認知症について、かんちがいていました」

講師の西岡励さん(右写真)がプロジェクトを使い、家族の日常を物語仕立てにした資料などで分かりやすく講義。受講した子どもたちは西岡さんの問いかけに対し真剣に考え、「認知症は他人事でも、特別な病気でもない」「認知症になっても心は生きている。感じている不安に寄り添ってあげて」という言葉をしっかりと受け止めていました。



声 講師 西岡励さん

特別養護老人ホーム白寿園勤務
生活相談員・介護支援専門員・介護福祉士

小学生に講義をしたのは初めてでしたが、大人に負けない考えを持っていることを実感しました。これから超高齢化社会になりますが、認知症の患者さんを支えるのは、家族だけでは限界があります。地域で支えていくことが大切です。より多くの人に、認知症へ関心を持ってもらいたいですね。

あなたも認知症サポーター
養成講座を開きませんか
市では、地域やグループ単位
などでの開催を支援しています。
詳しくはお問い合わせください
【問】地域包括支援センター
☎ 63・1177

2 1 画面を見つめ、真剣な表情で聞き入る
グループワークのようす。認知症の人の行
動について思いっく理由を出し合って発表した



広報あらお平成22年度「題字」採用者決定！

平成22年度「広報あらお」に掲載する「題字」計22作品が決定しました。今年も100人を超えるご応募、ありがとうございました。

●掲載が決定した皆さん(敬称略)

伊藤愛梨(一小6年、4/1号)、猿渡美菜(清里小2年、4/15号)、大月竣平(有明小5年、5/1号)、白石紗也華(緑ヶ丘小5年、5/15号)、寺本邦宏(二小5年、6/1号)、永田宇人(中央小6年、6/15号)、大村夏輝(緑ヶ丘小2年、7/1号)、小山みのり(二小2年、7/15号)、金子哲也(府本小4年、8月合併号)、松本歩羽華(緑ヶ丘小5年、9/1号)、小林万佑子(二

小6年、9/15号)、山下凜(八幡小2年、10/1号)中村真央(緑ヶ丘小6年、10/15号)、森絵美香(平井小5年、11/1号)、田中梨紗(緑ヶ丘小4年、11/15号)、岩間友太(中央小3年、12/1号)、栗原拓巳(三小6年、12/15号)、大窪安結美(中央小4年、1月合併号)、本村夕芽(一小5年、2/1号)、村上和香奈(緑ヶ丘小6年、2/15号)、佐藤咲(桜山小3年、3/1号)、緒方周吾(一小4年、3/15号)



▲選に漏れた皆さんの作品。元気な力作ばかりでした。来年もぜひ挑戦してください。